

前回からの主な変更点について
(1.2/2.3GHz 帯 FPU の高度化報告書 関連)

○STTC-MIMO を採用した理由の追記

該当箇所：報告書 1. 1 (2)

(以下を追記)

なお、複信方式を用いる固有モード伝送(参考資料1)は、周波数利用効率や回線信頼性を向上させる有用な技術である。しかし、現状ではロードレース中継のように長距離にわたる移動伝送において中継車の電波を複数の受信基地局で受信するシステム構成となっているため、それぞれの受信基地局で所有している伝搬路情報を送信側に正確に送り返すことは困難であり、技術的な課題がある。また、短距離伝送では見通し環境となり、伝送路情報の相関が高くなるために固有モード伝送の特性劣化が顕著となる。一方、後述する要求条件に照らして、単向通信による STTC-MIMO 方式の技術的条件の検討を行ったところ、要求される伝送容量および伝搬距離を十分に満足し、ロードレースコースを用いた実証実験によってもその有効性が確認された。よって、単向通信方式による技術的条件を今回の検討対象とした。

○HEVC の圧縮率の標記の削除

該当箇所：報告書 1. 2

(下線部 を削除)

新たな圧縮方式である HEVC (High Efficiency Video Coding) が、現在 ITU で検討されている。HEVC が FPU に適用可能となった場合、コーデック 3 段タンDEM 構成に必要な映像ビットレートは 35Mbps から 28Mbps 程度に、コーデック 1 段構成に必要な映像ビットレートは 21Mbps から 17Mbps 程度になることが予想される。現時点においては、MIMO 技術と HEVC による情報圧縮技術により、伝送に必要な C/N をより小さくできることやハーフモードへの導入も期待できるため、FPU への積極的な導入を図ることが適当である。

該当箇所：報告書 (旧) 参考資料 3

削除